

# 全国英語教育学会 2019年度第1回理事会議事録

■日時：2019（平成31）年3月24日（日） 13:00-17:45

■会場：関西外国語大学 中宮キャンパス 本館3階 302 会議室

■出席者：

伊東治己（会長）、深澤清治（副会長，会長代行）、里井久輝（副会長，理事・関西）、中村香恵子（副会長，理事・北海道）、志村昭暢（理事／幹事・北海道）、野呂徳治（理事・東北／弘前研究大会実行委員長）、久保田佳克（理事・東北／弘前研究大会副実行委員長）、斉田智里（理事・関甲信）、高田智子（理事・関甲信）、紺渡弘幸（理事・中部）、酒井英樹（理事・中部）、竹野純一郎（理事・中国）、高橋俊章（理事・中国／紀要編集副委員長）、五百蔵高浩（理事・四国）、折田充（理事・九州／前紀要編集委員長・紀要編集副委員長）

<以下，オブザーバー>

笠原究（紀要編集委員長・北海道）、片桐徳昭（紀要編集事務局長・北海道）、飯村英樹（前紀要編集事務局長・九州）、横川博一（京都研究大会実行委員長・関西）、丹藤永也（幹事・東北／弘前研究大会事務局長）、嶋田和成（幹事・関甲信）、田中武夫（幹事・中部）、橋本健一（幹事・関西）、松浦加寿子（幹事・中国）、麻生雄治（幹事・九州）、山森直人（事務局長・四国）

- ・ 議題に先立ち，伊東会長の2期目の就任挨拶があった。

■議 題：

1) 2019年度新役員（案）

- ・ 伊東会長より，新役員（(資料1)の提案があり，原案通り了承された。引き続き，理事会出席者の自己紹介があった。

議題1に引き続き，京都研究大会における盗用・剽窃の申し立てとその対応に関する報告があった。

- ・ 伊東会長より当日配布資料1（第44回京都研究大会での剽窃・盗用の申し立てに対する対応について）に基づき，検証委員会が立ち上げの経緯について説明があった。その後，検証委員会委員長より，当日配布資料2（全国英語教育学会第44回京都研究大会における研究発表に対する剽窃・盗用に関する申し立てに係る検証委員会報告書）に基づき経緯，双方の見解の要点，検証結果（盗用と判断することは困難）等が報告された。今後は，学術論文のみならず口頭発表においても個々の研究者の研究・知的財産権に対する配慮が必要との提案があった。
- ・ 検証委員会の報告・提案を受け，伊東会長より当日配布資料3（口頭発表での留意事項への追加項目（案））にもとづき，予稿集原稿作成要領および発表要領において新たに項目を追加する提案があり，了承された。また，上記配付資料1の「今後の検証委員会立ち上げに関する覚え書き」にもとづき，今後の対応について説明があり，了承された。
- ・ 上記当日配付資料1と2は報告後回収された。

2) 第45回弘前研究大会実施要綱（案）

- ・ 野呂実行委員長より大会実行委員会役員および開催日，会場，運営組織，大会日程，弘前大学が共催することなどの概要について説明があった。
- ・ 丹藤大会事務局長から，資料2-①②③④に沿って，第45回弘前研究大会の大会日程の詳細について説

明がなされた。おもな内容は次の通りである。

- 大会日程の詳細，研究発表時間枠・予稿集原稿規格及び申込・提出締切期限等，参加・宿泊・弁当・懇親会申込，などの詳細。
- 大会期間中のネット環境については，アカウントを大会当日受付に配付予定。
- 託児コーナーを設置予定。
- 大会期間中のプログラム（特別講演，各種フォーラム，ワークショップ，シンポジウム）の説明・確認。
- 大会ウェブサイトにて予稿集（pdf ファイル）を掲載予定。
- 以上の提案について審議に入る前に，伊東会長より報告事項 1) に予定していた京都研究大会総括を繰り上げる旨の説明があり，里井京都研究大会副実行委員長のお礼に引き続き，関西地区の橋本幹事より当日配付資料（総括）にもとづき，京都研究大会の報告があった。
- 丹藤事務局長より，プログラム集に掲載の要旨（ショートバージョンの削除）について提案があり，原案通り了承された。
- 伊東会長より，当日配布資料「口頭発表での留意事項への追加項目（案）」にもとづき，予稿集原稿作成要領および発表要領に加筆依頼があった。
- 丹藤事務局長より，助成金申請に向けた対策（参加者に対し，任意で名前・所属・宿泊先を記入依頼）について提案があり，理事会での意見（ウェブサイトの活用等）等を参考に大会実行委員会で検討することとなった。
- 伊東会長より学生・大学院生フォーラムの時間（開始時刻と終了時刻），昼食時間，研究発表の間の移動時間について検討いただけるよう依頼があった。
- 以上の審議を経て，弘前研究大会の実施要綱について，実行委員会原案に一部修正を加えて了承された。

### 3) 2018 年度決算（案）

- 山森事務局長より平成 30 年度決算（案）（資料 3）の説明があり，一部数字の訂正を加え，原案通り了承された。また，決算の最終案については第 2 回理事会にて審議予定であるとの説明がなされた。

### 4) 2019 年度予算（案）

- 山森事務局長より 2019 年度予算（案）（資料 4）の説明があり，原案通り了承された。また，予算の最終案については第 2 回理事会にて審議予定であるとの説明がなされた。

### 5) 第 46 回中部地区研究大会（経過報告）

- 紺渡実行委員長の挨拶に引き続き，酒井実行副委員長より大会のおもな内容と確認点について説明があった。
  - 開催日は 2020 年 8 月 8,9 日（7 日，紀要編集委員会，理事会）。
  - 会場は信州大学教育学部。会場変更の理由について説明があった（期間中移送に困難が予想できたため）。
  - 特別講演を実施予定（大会実行委員会，中部地区英語教育学会）。
  - 大学生・大学院生フォーラムの時間が
  - 2 日目の参加者の早い帰宅のため自由研究発表を午前中。
  - 学内 LAN へのアクセスは困難であるため，紙媒体の予稿集発行になる可能性あり。実行委員会にて継続検討。
- 会長より，学生・大学院生フォーラムの時間を確保するため昼休みを長くすることを検討してほしいと

の要望があった。

- ・以上、原案通り了承された。

6) 全国英語教育学会紀要 ARELE 30 号の編集について

- ・折田紀要編集委員長より、資料 6 にもとづき、平成 30 年度の活動、ARELE 第 30 号論文投稿・査読・編集過程、J-STAGE 利用状況、編集作業に関わる課題等について報告がなされた。
- ・査読委員への査読料については、他の学会もとっていない、過去の会長の意向があり無償化に至っている。今後、顧問会とも相談しながら継続審議していく。
- ・紀要執筆要領などについて西暦で統一するかどうかや、英語版「執筆要領」の作成については、新紀要編集委員会にて継続審議する。

7) 全国英語教育学会・学会賞（案）

- ・折田紀要編集委員長より、資料 7 にもとづき、学会賞の候補について報告があり、原案の通り了承された。

8) 各地区学会の担当ローテーションについて（資料 8）

- ・資料 8 の大会担当および会計監査担当のローテーションについて確認した。
- ・2020-2021 年度の会計監査を東北地区から選出することが依頼された。
- ・2024 年度は、50 周年記念大会の開催、記念号を出版予定。
- ・以上をふまえ原案の通り了承された。

9) 事務局の組織改編と英語教育セミナーの今後について（資料 9-①②）

- ・伊東会長から資料 9-①にもとづき説明があり、社会ニーズ対応推進部を研究／大会企画部の中に包摂する旨の説明があり、了承された。
- ・2020 年度に全国大会が開催される中部地区より研究／大会企画部に 1 名選出（長野研究大会）してほしいとの依頼があった。
- ・資料 9-②にもとづき、JES と共催の小学校英語教育セミナーを廃止すること、および地区学会活動の活性化を図るべく新しく「英語教育セミナー」の立ち上げること、について説明があり、審議の末、了承された。さらに同セミナーの運営のあり方について意見交換が行われ（他学会との連携、申請者の資格、セミナーの名称、学生による申請、など）、運営方法の具体について検討するよう研究／大会企画部に依頼された。
- ・今年度については、これまで実施してきた現・小学校英語教育セミナーの開催と兼ね合いで、4-7 月までの申請を認める。
- ・以上、審議の結果、了承された。

10) 事務局内各部における活動について（経過報告）（資料 11）

■財務部

- ・山森事務局長より資料 10-①にもとづき、2018 年度の登録賛助会員数は 31 社あったことが報告された。

■広報／通信部

- ・広報通信部の活動状況および提案等について、山森事務局長より資料 10-②にもとづき、代読された。おもな点は次の通りである。

- 2018年度下半期はNewsletterを8月と1月に発行し、平成31年度も同様に、4月(全国大会案内)・8月(ARELE案内)・1月(年会費案内)に大会情報や研究情報の投稿を告知予定。それ以外にも不定期で学会に関係する情報の投稿を検討する。また、2019年2月17日現在、メールマガジン登録者は514人(前年比+93人)に増えた。
- JASELEサイトにおいて、「平成30年度秋の叙勲で学会関係者3名が瑞宝中綬章を受章」、「第44回全国英語教育学会島根研究大会 学生参加レポート」、「台風21号ならびに北海道地震での被災者へのお見舞い」、そのほかに「全国英語教育学会第45回弘前研究大会」、「ARELE30号執筆要領とテンプレート」、「平成30年度第3回英語教育セミナープログラム」「2018年度年会費支払い期限について」などを新規投稿した。
- JASELE公式ウェブサイトの更新情報を通知する目的でTwitter上での情報発信を継続した。2019年2月17日現在、フォロワー数は441名(前年比+83人)で、前項のトピックを掲載した。その他、地区学会がツイートした学会情報をリツイート(引用転載の形で再投稿)している。

#### ■社会ニーズ対応推進部

- ・社会ニーズ対応推進部の活動状況および提案等について、山森事務局長より資料10-③にもとづき、代読された。おもな点は次の通りである。
  - 教員研修講師紹介制度については、京都研究大会に於いてチラシを配付したが、2018年度の活用事例0件であった。
  - 全国大会の託児所については、2019年度の京都研究大会においても設置し、2名の利用者があった。託児所の設置に関しては、各大会実行委員会のご尽力により安定的な運営となっている。研究大会担当の地区学会およびその翌年度研究大会担当の地区学会よりメンバーを選出してもらっているため効率的な運営ができています。
- ・山森事務局長より、2020年度研究大会(長野研究大会)に備え、中部地区英語教育学会に対し、託児所の設置に関わるコーディネータ(研究/大会企画部部員)を1名選出するよう依頼があった。

#### ■学生支援部

- ・学生支援部の活動状況および提案等について、山森事務局長より資料11-④にもとづき、代読された。おもな点は次の通りである。
  - 京都研究大会において行われた第6回大学生・大学院生フォーラムは1日目65名、2日目65名の参加があった。アンケート結果にもとづき、将来的には学生向けの企画として80-90分程度の枠を設けてほしいとの要望があった。
  - 弘前研究大会では、第7回大学生・大学院生フォーラムとして、1日目の昼休み(50分)に大学生・大学院生のための交流の場、2日目の昼休み(50分)に学生のための文献調査支援セミナーを実施予定である。弘前研究大会事務局には、参加者が訪れやすい位置にある教室の使用、可動式の椅子や机がある教室の使用、学会期間中の周知・宣伝について要望があった。
  - 学生会員の研究大会参加助成金制度については、京都研究大会における申込者は2名あった(島根研究大会4名)。2019年度の弘前研究大会においても同じ制度を実施予定でそこで、弘前研究大会事務局には、大会ウェブサイトにある参加申込みフォーム入口に「学生会員の大会参加助成金制度」という項目を設け全国学会ウェブサイトにある応募要領へのリンクを設置すると同時に、研究大会の案内や参加要領などの文書において同制度に関する情報の掲載を検討してほしいとの要望があった。また、理事会役員に対しては同制度について学生へ周知すること、および、各地区学会事務局に対しては応募者の会費納入状況の確認協力の要望があった。

## 11) その他

### ①民間試験活用に関するシンポジウム開催について

- ・伊東会長より、資料 11-①大学入学共通テスト（英語）における民間試験の活用に関するシンポジウムの開催について説明と提案があり、審議の結果、了承された。なお、登壇者は会長・副会長に一任することとなった。なお、以下のような意見や質問が提出された。
  - 全国大会と抱き合わせることはできないか。
  - シンポジウムのみで遠方より参加するメリット。
  - 東京大学で行われたシンポジウムでは多くの人が集まり、テーマとして関心が高い。
  - 会員のみで参加か、一般参加も認めるか。
  - 登壇者は非会員も認めるか。
  - 繰越金の会員への還元（会員を優先してはどうか）。
  - 今後も他のテーマについて同様のシンポジウムを開催する予定はあるか
  - 誰に向けてのシンポジウムか（会員か、世間一般か）。学会としての意見発信の場合、どのような登壇者の人選。
  - 参加者はオープンに（会員以外の人でも参加可）。全国英語教育学会としての意見ではない。学問的視点から述べる。
  - シンポジウムの目的や論点を明確にすべき。

### ②FLEATVII シンポジウムでの登壇オファーについて

- ・伊東会長より登壇オファーについて説明があり、全国英語教育学会として引き受けるか審議した結果、同案件を各地区学会に持ち帰り、地区単独あるいは複数地区において、引き受け可能な場合は、4月15日までに学会事務局連絡することとなった。

### ③日本児童英語振興協会からの学会情報掲載依頼について

- ・全国学会としては今年度は依頼に対する承諾は見送り、実物が出版されてから改めて検討することとし、先方にはその旨回答することとした。

### ④理事会申し合わせ事項の確認

- ・伊東会長より資料（申し合わせ事項）にもとづき、「賛助会員による研究発表について」の追加、「紀要投稿資格」の加筆について説明があり、原案通り了承された。

## ■報告事項：

### 1) 第44回京都研究大会総括

- ・議題2)において報告済み。

### 2) 言語系学会連合意見交換会について

- ・伊東会長より同意見交換会の議事録にもとづき報告があった。

### 3) 他学会等の研究大会等への後援について

- ・伊東会長より2018年度福島英語教育フォーラム、FLEAT VII, SSUからの後援申請と承認について報告があった。

4) 平成 30 年度秋の叙勲者について

- ・平成 30 年度秋の叙勲で、全国英語教育学会関係では、金田道和先生（山口大学名誉教授）、松畑熙一先生（岡山大学名誉教授）、大坪喜子先生（長崎大学名誉教授）の 3 名の先生方が瑞宝中綬章を受章され、学会から祝電を送るとともに、学会 HP に記事を掲載した旨報告があった。

5) その他

- ・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、「国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦」について依頼があったこと、かつ、今回は推薦の回答はしなかったことが報告され、今後の対応について説明があった。